

【報告事項 1.】

平成 26 年度事業報告の件

政治・経済・教育等様々な分野で大きな課題として取り上げられる日本の将来人口は、近年の動向から、今後長年にわたる人口の減少と、著しい高齢化時代への突入が推測されている。このような社会情勢の中、本会が取り組んだ平成 26 年度の事業においては、継続的に行っている 15 の公益事業に加え、高齢者の健康寿命延伸に関するペット飼育の効果に着目し、地域包括ケアシステムにおける高齢者の動物飼育支援や、HATT 構想に基づく人と動物が幸せに共生できる環境の構築を具現化するための取組等、様々な検討を進めてきた。

また、組織率の強化と会員サービスを目的とし「東獣会員オンラインサービス」を開始し、そのコンテンツや本会が発信する情報をよりタイムリーに活用する事を目的としたポータルサイトの無料公開など、共益目的事業に対しても積極的な活動を行った。

更に、中長期展望に基づく本会財務計画への取組みと、公益社団法人としての組織の透明性と統治能力、社会からの信頼を損じることのないよう法令を遵守し、広く社会に資することを目的とした諸事業の推進と会務の運営に努力した。

I 会務報告

1. 役職員等の人事

(1) 東京都庁関係：

- ・小松泰史副会長：東京都自然環境保全審議会委員部会長（H25 年 6 月～任期 2 年）
- ・小松泰史副会長：東京都産業廃棄物対策委員会医療廃棄物部会委員
（H25 年 6 月～任期 2 年）
- ・小林元郎副会長：東京都動物愛護推進協議会委員（H25 年 4 月～任期 2 年）

(2) 日本獣医師会関係：

- ・村中志朗会長：狂犬病予防体制整備特別委員会（H25 年 11 月～任期 2 年）
- ・小松泰史副会長：東京地区代表理事（H25 年 6 月～任期 2 年）
- ・村中志朗会長：動物感謝デー 実行委員（H25 年 7 月～任期 2 年）
- ・小松泰史副会長：動物感謝デー 実行委員（H25 年 7 月～任期 2 年）
- ・小林元郎副会長：獣医師道委員会委員（H25 年 7 月～任期 2 年）
- ・小林元郎副会長：動物福祉・愛護部会 動物福祉・適正管理対策委員会小委員会
災害時獣医療活動検討委員会（H25 年 12 月～任期 2 年）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

- ・小松泰史副会長：獣医師賠償責任保険中央審議会委員
（H26 年 7 月～任期 1 年毎の継続更新）

(4) オリンピック関係：

- ・村中志朗会長：一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問（H26年6月～）

(5) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

- ・村中志朗会長：東京地区代表理事（H26年6月～任期1年）
- ・小松泰史副会長：監事（H26年6月～任期1年）

(6) 本会役員関係：

- ・外部監事寺澤悠氏辞任：（H26 4/10）
- ・公益第Ⅱ期の役員選任：第3回定時総会承認
理事10名：天野芳二（世田谷支部）、上野弘道（中央支部）、大久保忠宜（共済支部）、郷野栞（かんらん支部）、小林元郎（世田谷支部）、小松泰史（南多摩支部）、高橋恒彦（新宿支部）、中川清志（北多摩支部）、村中志朗（中央支部）、安田辰巳（江戸川支部）
監事1名：池田忠生（生物医学支部）
- ・代表理事（会長）村中志朗、業務執行理事（副会長）小松泰史、小林元郎の選任：第1回臨時理事会承認
- ・外部監事寺澤悠氏選任：第3回定時総会承認
- ・天野芳二理事を業務執行理事に推薦：第5回定例理事会承認

(7) 本会事務局職員関係：

- 黒島千恵子氏正規職員採用（H26 4/1）
- 平井潤子氏事務局長推挙：第5回定例理事会承認

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。

- ア. 総会：定時総会第3回 6/22
- イ. 理事会：定例：第1回 5/20、第2回 6/30、第3回 9/26、第4回 12/22、第5回 H27 3/17、臨時：第1回 6/22
- ウ. 会務運営会議：第1回 5/7、第2回 11/21
- エ. 監査会：第1回<H25 全期決算監査>5/9、第2回<H26 上半期監査>11/26
- オ. 地域職域合同支部長会：第1回 6/12(日獣会議室)、第2回 12/17(日獣会議室)
支部説明会：会計説明会 9/26
- カ. 倫理委員会：第1回委員会 7/30
平成26年度倫理委員会委員は次の7名が第3回定時総会にて承認された。
秋元武文（中央支部）、朝倉通彦（品川支部）、香西解夫（町田支部）、清水誠（北多摩支部）、高橋一（世田谷支部）、平見博（練馬支部）、藤井正照（江戸川支部）
- キ. 役員候補者選任委員会：第1回 7/23、第2回 8/27、第3回 11/26、第4回 H27/1/21
- ク. 表彰審査委員会：6/9
- ケ. 東京地区三学会幹事会 5/30
- コ. 共生社会構築委員会：第1回 5/19、第2回 7/9、第3回 8/26、第4回 10/7、第5

回 11/10、第 6 回 11/28、第 7 回 12/12、第 8 回 H27/1/8、第 9 回 H27/2/19、第 10 回 H27/3/25 長野ハローアニマル施設見学 9/14

動物いのちの救済基金ロゴマーク商標登録

- サ. 産業動物委員会：第 1 回 8/20
- シ. 獣医公衆衛生委員会：第 1 回 8/18、第 2 回 H27/1/13
- ス. 都委託小動物診療施設安定雇用システム検討委員会：第 1 回 8/27、第 2 回 10/8、第 3 回 11/16
- セ. 危機管理・防災関係：第 35 回九都市合同防災訓練 8/30、安否確認訓練 9/1、3/11、豪雨災害安否確認 9/10-11、安否確認メール未達者解消テスト（毎月 15 日）
- ソ. 広報委員会：第 1 回 4/21、第 2 回 6/30、第 3 回 8/25、第 4 回 10/21、第 5 回 12/8 第 6 回 H27/2/17
- タ. 賛助会員ミーティング：第 1 回 8/5、第 2 回 H27 1/27

(2) その他関係機関、他団体等の会議、委員会等の活動状況：

- ア. 公益認定申請関係：平成 25 年度事業報告、及び決算報告の電子申請（6/30）、平成 27 年度事業計画、及び予算計画の電子申請（3/31）
- イ. 都庁関係：補助犬「身体障がい者生活支援活動事業」診療券の贈呈 6/6、第 64 回「社会を明るくする運動」東京都推進委員会 4/25、動物由来感染症検討会（都庁会議室）7/23、3/23、H26 動物診療施設開設者講習会（国立オリンピック記念青少年総合センター）3/11、第 14 回東京都動物愛護推進協議会（都庁会議室）3/18、獣医療広告ガイドライン等に関する監督指導強化依頼 8/5 H26 東京都委託獣医師育成講座事業受託、H26 東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業補助金受領、H26 東京都委託動物病院における動物由来感染症モニタリング事業受託、H26 傷病野生鳥獣の保護治療等事業受託、H26 ノネコ搬送に伴う感染症対策等事業受託、H26 小学校動物飼育推進校事業受託、H26 東京都動物愛護推進員委嘱状交付式 5/8、H26 東京都動物愛護推進員推薦 11/14、H26 狂犬病発生時対応訓練（11/28）
- ウ. 日獣関係；理事会：第 1 回 5/28、第 2 回 6/27、第 3 回 9/19、第 4 回 12/12、全国獣医師連合会長会議 6/26、第 71 回通常総会 6/27、全国獣医師会事務事業推進会議 7/18、2014 動物感謝デー in JAPAN WORLD Veterinary Day 10/4、日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム—人と動物の共通感染症を考える—狂犬病の現状と対策 10/28、平成 26 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（岡山）2/13～2/15、日獣委託小動物臨床講習会「狂犬病全般について 台湾での発生についても併せて」他 H27/2/1
- エ. 関東連関係；理事会・学会幹事会：第 1 回（甲府）4/20、第 2 回（甲府）7/13、第 3 回 2/19 監査会 2/19（笛吹）、関東連大会・学会 9/7（甲府）
関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定書締結（4/1）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定細目締結（4/1）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会の連携・相互協力に関する覚書締結（4/1）

- H26 大会スローガン「伴侶動物の飼育率向上をめざそう。」
- H26 獣医時功績者及び特別功労者推薦 工藤莊六（工藤動物病院：中野支部）・野村治（牛浜ペットクリニック：多摩西支部）・平見博（ヒラミ動物病院：練馬支部）
- オ. 政令指定都市獣医連絡協議会；第1回6/25（神戸）、第2回11/30（神戸）
- カ. 他府県獣医師会：福島県獣医師会「東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う被災ペットの譲渡について」協力要請を受け、本会会員6名（理事5名、会員1名）が猫5頭、犬1頭を受け入れた。
- 埼玉県獣医師会主催 小動物臨床講習会 11/19 への参加
- キ. 中央畜産会：第59回通常総会・理事会 6/25、関東畜産ブロック会議開催 9/25-26、H26 衛生体制強化基金事業受託、H26 地域自衛防疫強化特別対策事業「地域伝染病発生時対応支援に関する講習会」11/16 開催
- ク. 全国食肉衛生検査所協議会：H26 全国食肉衛生検査所長会議及び第50回全国食肉衛生検査所協議会記念大会 7/16
- ケ. 東京都医師会との学術協力の推進に関する協定締結（6/3）
- コ. 1964 東京オリンピック・パラリンピック 50 周年記念祝賀会 10/10
- サ. 御蔵島ノネコ対策に関する相談（御蔵島村長依頼）7/28
御蔵島ノネコ対策に関する協力願い（公財 山階鳥類研究所）8/11
- シ. 東京都公衆衛生獣医師協議会表敬訪問 H27 1/16
- ス. 関東しゃくなげ会 第36回獣医師技術研修会 H27 6/19 共催開催
- セ. 東京都特別区・市町村担当者との協議調整を経て、狂犬病予防定期集合注射料金を3,100円とした。（H27 4/1～）

（3）国際交流関係：

- ア. 第5回アジア小動物獣医師会；FASAVA 北京大会、China National Convention Center 5/12（月）～15（木）参加
- イ. 2019FASAVA 大会、開催地（東京）、及び JBVP との共催が決定

3. 催事、学術集会等の実施状況

事業実施報告参照

4. 本会が後援したイベント・キャンペーン等

- ・ NPO 法人野生動物救護獣医師協会「ひなを拾わないで」キャンペーン 4/1～7/31 協賛
- ・ 一般社団法人ペットフード協会「インターペット2014」 7/24～27 協賛
- ・ F C I ジャパンインターナショナルドッグショー2014 3/29-30 後援
- ・ ジャパンドッグフェスティバル2014 12/20-21 後援
- ・ 株式会社ジョーカー（賛助会員）イベント「ありがとう ペットロスと向き合おう in 海の森イベント」後援 10/26

5. 規定の改廃等

会務を円滑に推進するため、次の諸規定の制定、改廃等を行った。

- (1) 学会発表に係る旅費・参加登録料の支給に関する申合せ事項の改正：第3回定例理事会承認
- (2) 寄付金等取扱規則（新規制定）：第5回定例理事会承認
- (3) 身体障がい者生活支援活動事業要綱（改正）：第5回定例理事会承認
- (4) 動物愛護共生活動事業要綱（新規制定）：第5回定例理事会承認
- (5) 特定費用準備資金取扱規程（新規制定）：第5回定例理事会承認
- (6) 賛助会員規程（新規制定）：第5回定例理事会承認

6. その他

(1) 組織率の向上

- 1) Face to Face 意見交換会（イブニングセッション）「執行部が答える東獣の今！－東獣執行部政策懇談会」11/16（日）を開催して、執行部と会員とが近しく意見交換を行う場を提供し、組織充実に努めた。
- 2) 会員へのタイムリーな情報提供と情報収集のツールとして、東獣ポータルサイトを構築し、会員特典として基本サービス無料での提供を開始した。
- 3) 賛助会員の協力を得て、本会会員特典を付加したクレジットの契約を行い、会員への利用案内を行った。
- 4) 本会ホームページにて会員病院が検索できるシステムの運用を開始した。
- 5) 会務手続きの負担軽減と効率化をめざし、東獣会員オンラインサービスを開始し会費等のクレジット支払システムを導入した。
- 6) 敬老の日を祝して、対象会員に対してお祝い品（図書カード）を贈呈した。
- 7) 本会案内パンフをもって広報すると共に、他の関連組織への訪問や講習会等への参加を勧誘して加入促進に努めている

(2) 収益事業

- 1) 「インターペット2014」企画「犬猫ペット健康相談所」全6回 7/24(木)～27(日)
- 2) ジャパンケネルクラブ「ジャパンドッグフェスティバル2014 12/20-21 東京ビッグサイト」企画「犬猫ペット健康相談所」全6回
- 3) 本会作成の印刷物（カレンダー・証明書等）を頒布した。
- 4) H26 本会会員名簿制作印刷（1500冊）、広告の掲出 等

7. 本会組織の会員状況

平成26年度末会員数は、A会員682名、B会員467名、計1,149名である。

また、年度内の入会は46名、退会79名（逝去9名含）、会費免除高齢会員64名、長寿会員6名であった。（会員の内訳は表参照）

地域 支部	A会員			B会員			計		
	26年度 会員数	25年度 会員数	差異	26年度 会員数	25年度 会員数	差異	26年度 会員数	25年度 会員数	差異
中央	22	22	0	12	12	0	34	34	0
文京	17	19	△2	6	7	△1	23	26	△3
新宿	19	20	△1	0	0	0	19	20	△1
中野	19	19	0	1	1	0	20	20	0
杉並	38	37	1	11	13	△2	49	50	△1
世田谷	61	63	△2	25	24	1	86	87	△1
渋谷	9	10	△1	2	2	0	11	12	△1
目黒	27	29	△2	7	6	1	34	35	△1
大田	44	42	2	15	17	△2	59	59	0
品川	19	20	△1	4	4	0	23	24	△1
勝島	15	16	△1	0	0	0	15	16	△1
江東	19	19	0	1	2	△1	20	21	△1
墨田	19	19	0	3	2	1	22	21	1
城北	17	18	△1	2	2	0	19	20	△1
葛飾	19	18	1	2	2	0	21	20	1
江戸川	25	24	1	9	10	△1	34	34	0
足立	24	26	△2	0	0	0	24	26	△2
北	17	18	△1	1	0	1	18	18	0
豊島	14	16	△2	3	3	0	17	19	△2
板橋	20	20	0	4	4	0	24	24	0
練馬	40	41	△1	17	15	2	57	56	1
武蔵野三鷹	18	18	0	1	1	0	19	19	0
北多摩	35	36	△1	5	5	0	40	41	△1
多摩東	25	29	△4	6	8	△2	31	37	△6
南多摩	15	15	0	4	4	0	19	19	0
八王子	21	22	△1	0	0	0	21	22	△1
町田	22	22	0	1	1	0	23	23	0
多摩西	42	38	4	5	4	1	47	42	5
小計	682	696	△14	147	149	△2	829	845	△16

職域 支部	B会員		
	26年度 会員数	25年度 会員数	差異
農水省	5	5	0
動薬検	6	7	△1
都産労	11	11	0
都公衆衛生	34	38	△4
東大	16	16	0
農工大	18	20	△2
日獣大	32	35	△3
生医白金	28	29	△1
日生研	8	9	△1
松研	3	3	0
中央競馬	5	5	0
都共済	13	17	△4
動物薬事	36	41	△5
かんらん	105	101	4
小計	320	337	△17
総計	1149	1182	△33

II 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

今年度は、昨年大型の台風が接近したため中止となった災害対策と被災動物救護活動をテーマに共生社会構築委員会が企画し、2014 動物感謝デー in JAPAN - World Veterinary Day - 会場にて開催された。

期 日：平成 26 年 10 月 4 日（土）

場 所：東京都世田谷区 駒沢オリンピック公園内メインステージ

演 題：「発災後 72 時間 - ペットの命を守るために -」

シンポジスト

三宅しげき（自由民主党都議会議員）

永渕恒幸（東京都福祉局動物管理係長）

村中志朗（東京都獣医師会会長）

磯洋一（東京都獣医師会防災セクション長）

垣内りか（ペットライフアドバイザー・動物感謝デー1日親善大使）

司会

小松泰史（東京都獣医師会副会長）

2. 狂犬病予防対策推進事業

狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業の実施、狂犬病予防に対する知識の普及、啓発事業の推進、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、都民の生命と財産の安全を確保することで、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めていくため、次の事業を行った。

2-ア. 都民に対する狂犬病に関する情報提供と周知；

狂犬病に関するポスター、リーフレット等を作成し、勝島支部を除く 27 地域支部において、動物診療施設等に掲示して都民に対して狂犬病予防の重要性を啓発した。

また、狂犬病予防注射の必要性を広く社会に訴えることを目的として本会監修の動画を作成しインターネット上に公開した。

2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

飼育者に対し、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の法令遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。前年度に引き続き狂犬病予防ワクチンの備蓄等に関する検討を行った。

2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病の診断技術を周知、研鑽するための印刷物配布、本会ホームページによる広報又はセミナー等を実施し、新たな情報の提供とより早期に狂犬病の発生を把握するための体制を構築した。

期 日：平成27年2月1日（日）14:00～17:00

場 所：中野サンプラザ研修室2

対 象：各開業支部狂犬病担当者 及び自治体担当者

演題1：「狂犬病について 台湾での発生状況も併せて」

講師1： 杉山 誠 教授 岐阜大学

演題2：「狂犬病事故発生時のセーフティネットについて」

講師2： 小梅川 博之 様 損保ジャパン日本興亜（株）

2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

27の地域支部において、狂犬病予防定期集合注射の安定的な実施及び注射済票交付を実施し、狂犬病予防注射の接種率向上に努めるとともに、法による犬の登録の受付を代行するなどして、飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、支部による狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また一方では、狂犬病予防注射離島対策事業として、東京都下島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体調査；

狂犬病の発生予測に資するため、都民が飼育する犬を対象に狂犬病の抗体調査を行い、都民の生命と財産の安全を確保するとともに、狂犬病予防の必要性を喚起した。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内に災害発生時の初動活動に対応するよう危機管理室を設け、これらは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

災害時動物救護マニュアル（ガイドライン）及び東京都との協定書に基づき、災害時において、被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的且つ速やかに実施するために、平時においては、本部及び、支部において、都、及び市区町村で開催する防災担当者会議に積極的に参加し、ガイドラインやマニュアルの整備など、動物救護の仕組み作りの検討に協力した。また、都及び区市町村が実施する防災訓練やイベントに参加し、ブースにおける防災用品やパネル展示、印刷物の配布、マイクロチップ挿入のデモンストレーション等を行った。また、ポスターや印刷物、講演会等により、都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

期 日：平成26年8月30日（土）

事業名：東京都・杉並区合同総合防災訓練

更に有事を想定して、本会独自の危機管理専用連絡網の整備等を引き続き検討し、平成26年9月1日及び平成27年3月11日の2回にわたって会員の安否確認訓練を実施した。また、安否確認メール未達対策のため、毎月15日にテスト送信を実施し、

問題解決を図った。

平成 26 年 9 月 10 日、11 日に発生した都内豪雨被害においては、支部長等に連絡し、被害が想定された地域の会員の安否を確認し、人的被害が生じていないことを確認した。

3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ情報をホームページにより都民に対して提供することにより、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に寄与した。

4. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受けて、広範な都内会員の動物病院 20 施設にて①皮膚糸状菌症、②疥癬症、③ノミ寄生、④回虫症、⑤ジアルジア症、⑥瓜実条虫症、⑦ブルセラ症、⑧トキソプラズマ症等、人と動物の共通感染症の疫学モニタリング調査を実施し、協力の 20 か所を拠点とした定点観測を継続した。また、都内会員の動物病院 6 施設の協力を得て、ネコひっかき病と Q 熱について、来院した動物の飼い主に了解を得て検体を採取後、株式会社モノリスに検査を依頼しその罹患の有無を調べることによって、都民の健康を守るための人と動物の感染症の発生状況等の予察に努めた。

5. 学校動物飼育対策推進事業

5-ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学校飼育動物が命あるものとして扱われ、児童とのふれあいを基本とする飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を展開するため、学校等を支援することとして支部を通じて依頼のあった学校に対して本会から講師を派遣した。講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導、また児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる支部担当者間の情報の交換と提供に努めた。

5-イ. 学校獣医師養成講座；

平成 26 年度は実施していない。

5-ウ. 東京都教育委員会への協力；

平成 26 年度は実施していない。

5-エ. 動物飼育作文コンクール；

平成 26 年度は実施していない。

5-オ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、都内 5 つのモデル小学校において①衛生管理指導、②体験活動事業、③研修会事業、④動物由来感染症発生時対応事業、⑤埋葬事業を実施した。動員された会員獣医師は 31 名であった。

5-カ 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

東京都獣医師会動物霊園協会との間で「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」を締結し、同協会の協力を得て、学校飼育の死亡動物の適切な埋葬を支援するとともに、担当動物病院において死体検案により死因検案を行い、死因データ等を収集した。更に、学校飼育動物の死亡に際しては、児童の心身の安全を確保し、学校並びに児童の「命を悼む心情」を育み補佐するよう指導に努めた。

6. 動物愛護啓発事業

6-ア 催事における啓発事業；

支部が企画、計画した動物愛護活動・動物フェスティバル、区市民祭り等での啓発活動を支援した。平成26年11月2日開催の世田谷動物フェスティバルでは、世田谷支部、世田谷区、共生社会構築委員会委員、地域フェスティバル実行委員、賛助会員各位の協力で「人と動物の共生」をテーマに、災害時の動物救援活動、動物の適正飼養などについてパネル展示、パンフレットなどを配布するとともに、今年度から開始した「動物のいのち救済基金」についてチラシ配布、説明を行なった。賛助会員の東京都獣医師会霊園協会7霊園が「命」をテーマに出展、生花の首飾りや風船を来場者に提供した。また賛助会員の千寿製菓が「動物の目の健康」をテーマに出展した。

日本獣医師会が主催する平成26年10月4日(土)開催の「動物感謝デー」に参加協力して、動物愛護と終生飼養の意識向上を図り、人と動物のより良い共生社会の構築に努めた。

平成26年9月14日(日)に、長野県動物愛護センター(ハローアニマル)を、共生社会委員6名、本会役員5名、事務局職員1名、都議会議員2名、賛助会員16社19名、計33名で視察を行い、本会が推進するH A T T構想、動物のいのち救済基金等の事業の運営に資した。

また動物愛護推進委員、関係機関等と協力して動物福祉の向上に寄与した。

6-イ ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、不妊去勢手術を実施した。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業：

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて情報提供と知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者生活支援活動事業：

東京都福祉保健局と協力して身体障がい者の生活を支援する目的で、動物診療施設の協力を得て募金活動を推進した。

東京都福祉保健局を介して補助犬無料診察券配布を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。平成 26 年度（3/31 現在）では、約 248 万円の募金額を収集し、身体障がい者補助犬 1 頭 3 万円の診療券 130 頭分を交付し、健康管理費用に充当された。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業：

本会会員病院の協力を得て、夜間診療提供体制（ネットワーク）事業を継続して実施した。本事業は、登録している会員動物病院と夜間診療専門病院の参加で毎晩の当番制を実施している、本会ホームページやポスター等を閲覧した飼育者が、電話連絡することによって当夜の当番病院を把握し、受診することで恒常的な夜間診療を提供できるよう、マネジメントを提供する仕組みで、組織として夜間診療活動を継続して実施することによって、動物福祉、適正飼育、感染症対策、公衆衛生の向上等、人と動物のより良い共生社会の構築に寄与した。

10. 小笠原自然環境保護活動事業：

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るため、平成 23 年 6 月、世界自然遺産登録に認定され、引き続き、次の事業を実施した。

10ーア 保護されたノネコの保護活動事業：

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した。（今年度 45 匹、計 419 匹）

10ーイ 小笠原諸島現地診療活動事業：

本会会員で構成する動物医療派遣団を現地に派遣し、飼育動物の適正飼養啓発と不適切な繁殖の防止を図るための活動を実施した。

平成 26 年度における派遣は平成 26 年 11 月 13 日～11 月 24 日（島滞在は 11 月 14 日～11 月 23 日）獣医師 6 名、担当理事 1 名を現地に派遣し、また現地獣医師 1 名の参加も得て、飼いネコを対象にマイクロチップの挿入、血液検査、寄生虫検査、健康診断、等、小動物診療活動を実施した。島での動物適正飼養の観点から、犬の飼い主、ネコの飼い主向けに飼育・健康相談、室内飼養の普及推進、また小中学生を対象とした次世代育成事業として「自然と共生した島の暮らしの実現」をテーマに講義と実習を各学校でおこなった。

10ーウ シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業：

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ、ポスター等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業：

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は①4～9月で177件、②10～3月で107件であった。

一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等78件については動物の命の大切さから、本会負担により保護、治療に充った。

また、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

獣医師は、日進月歩する専門技術と知識の研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施した。

本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、薬事法、人獣共通感染症、小動物獣医療に関わる臨床獣医師の資質向上、獣医療トラブルの未然防止と適切な獣医療の提供、臨床現場における危機管理対応能力の向上等を目的とした。（4）、（5）の講習会については、東獣'14 イヤーズカンファレンスと題して、同時開催の形式をとった。

- （1）三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会活動を通じて、技術と知識の研鑽に努めた。更に、学会幹事会（5/30）を開催し、同学会の運営等の円滑推進に努めた。なお、平成26年度の関東・東京地区三学会は山梨県において開催されこれに協力した。
- （2）学術国際交流活動；加盟したアジア小動物獣医師会（FASAVA）会議、および学術交流活動に積極的に参加するとともに、第5回アジア小動物獣医師会；FASAVA 北京大会、China National Convention Center 5/12（月）～15（木）に参加した。また、同大会の2019年東京開催に備え準備・協議を進めた。
- （3）日本獣医師会による講習会；日本獣医師会と連携し、産業動物、小動物又は獣医公衆衛生分野に関する学術講習会を開催し、知識と技術の研鑽に努めた。

狂犬病・獣医師対象セミナー

期 日：平成27年2月1日（日）14:00～17:00

場 所：中野サンプラザ研修室2

対 象：各開業支部狂犬病担当者 及び自治体担当者

演題1：「狂犬病について 台湾での発生状況も併せて」

講師1： 杉山 誠 教授 岐阜大学

演題2：「狂犬病事故発生時のセーフティネットについて」

講師2： 小梅川 博之 様 損保ジャパン日本興亜（株）

- （4）東京都委託事業による講習会；東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、飼い主の求める動物病院のあり方をトークセッション形式で模索し、また、安定した獣医療提供の確保と獣医療トラブルの未然防止を図るため、動物診療施設における労務管理に関する講習会を開催した。

都委託：「獣医師育成対策事業」小動物獣医療向上対策講習会

期 日：平成 26 年 11 月 16 日（日）

場 所：アクセス青山フォーラム

第 I 部： 13:00～15:00 < 2 時間 00 分 >

—期待される獣医療と動物病院のあれこれ—

・飼い主からみる獣医師と動物病院

講師：神津善行、中村メイコ夫妻

内容：TV 等でお馴染みの動物愛護に見識のある知識人として夫妻の対談を実施。専属司会者の武田佳子氏の進行により、夫妻がこれまで飼育してきた愛犬や愛猫との潤いのある生活、海外で体験したペット事情、動物終生飼育の提唱と人の高齢化に伴い動物も成犬・成猫を飼育する傾向にあること、動物飼育には係る所要経費が必要であること、動物病院受診時の病院スタッフの初動対応がその動物病院の評価につながるなど、動物の飼育者としての声を聴くことができた。

第 II 部： 15:15～17:00 < 1 時間 45 分 >

—動物病院の適切な運営を考える—

・知っておきたい動物病院の労務管理知識

講師：小浜ますみ（社会保険労務士・横山社会保険労務士事務所副所長）

内容：労働基準法に準拠した労務管理に関して、下段の「獣医療向上対策の検討委員会/小動物診療施設安定雇用システム検討委員会」が取りまとめた資料をもとに、専門者である社会保険労務士による講習を実施した。始めに検討委員会から、獣医業界に「なぜ今、労務管理に関する知識が必要か！」について解説し、続いて動物診療施設における労務管理知識の重要性について講演が行われた。獣医業界に雇用上のトラブルが生じることのないよう、今後とも業界のモラルを遵守し、情報周知の必要性が示された。また、労務管理に関する知識は重要であることから、講習内容は東獣ホームページに公開した。

- (5) 東京都補助事業による講習会；人と動物の共通感染症を含む感染症対策をテーマに、東京都補助の獣医公衆衛生学術振興事業による公衆衛生関係講習会を実施した。更に、委員会等により講習会企画と獣医公衆衛生対策等を検討した。

都補助：「獣医公衆衛生学術振興事業」学術講習会

期 日：平成 26 年 11 月 16 日（日）

場 所：アクセス青山フォーラム

演題 1：「新興感染症 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」

講師 1： 森川茂先生（国立感染症研究所獣医科学部 部長）

演題 2：「危険が潜む野外活動と人畜共通感染症」

講師 2： 山田章雄先生（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

(6) 学術情報提供；

1) 東獣ジャーナル 2014. 11 No.569 及び東獣 HP

「東京電力(株)福島第一原子力発電所事故による食品中の放射性物質問題の現状と課題について」

執筆者：道野英司先生

(農水省消費・安全局消費者情報官〈前厚労省医薬品食品局輸入食品安全対策室長〉)

2) 東獣ジャーナル 2015. 1 No.570 及び東獣 HP

新興感染症「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」

執筆者：森川 茂先生 (国立感染症研究所獣医科学部部長)

3) 東獣ジャーナル 2015. 3 No.571 及び東獣 HP

「危険が潜む野外活動と人畜共通感染症」

執筆者：山田章雄先生 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

4) 東獣ジャーナル 2015. 1 No.570 及び東獣 HP

獣医公衆衛生委員会報告「HACCP 導入義務化へ向けて、動き出せ」

執筆者：山本茂貴委員長 (獣医公衆衛生委員会)

(7) 支部学術講習会；支部が実施する学術講習会をもって、継続した生涯教育の充実と地域学術振興の活性化に努めていくこととした。平成 26 年度実績は以下の通りである。

支部：武蔵野三鷹支部

期日：平成 27 年 1 月 30 日 (金)

場所：武蔵野市 かたらいの道市民スペース (武蔵野市)

演題：「認知症」

講師：入交 真巳先生 (日本獣医生命科学大学)

支部：杉並支部

期日：平成 27 年 3 月 8 日 (日)

場所：西荻南区民集会所 (杉並区)

演題：「臨床獣医師が知っておきたい、犬アトピー性皮膚炎の病態と診療の実際」

講師：増田健一先生 (動物アレルギー検査株式会社 代表取締役社長 獣医師)

柴田久美子先生 (DVMs どうぶつ医療センター横浜 二次診療センター)

支部：生物医学支部

期日：平成 27 年 3 月 27 日 (金)

場所：東京都獣医師会会議室（港区）
演題：「動物実験と実験動物」
講師：金井孝夫先生（東京女子医大）
演題：「魚類の記録 魚拓作製の技術」
講師：諸星康雄先生（元北里大学）
演題：「近代ワクチンの創始者 パスツール」
講師：池田忠生先生（元日本大学）

(8) 本会が後援・協賛した学会・講習会等

- ・第140回 JAHA 国際セミナー「臨床現場を完全再現！動画で学ぶ循環器疾患への対応スキル」6/21-6/22 後援
- ・第141回 JAHA 国際セミナー「臓腑疾患」8/22-8/24 後援
- ・第142回 JAHA 国際セミナー「一步先行く軟部外科」10/31-11/2、11/4-11/6 後援
- ・第143回 JAHA 国際セミナー「臨床麻酔を知る」1/17-1/18 後援
- ・第144回 JAHA 国際セミナー「救急疾患へのファーストエイド」3/6-3/8 後援
- ・特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 2014 春の公開シンポジウム「災害時におけるペットとの同行避難を考える」5/25 後援
- ・動物との共生を考える連絡会シンポジウム「改正動物愛護法」6/15 後援
- ・酪農学園大学獣医学科創立 50 周年記念事業 東京記念講演会」11/8 後援
- ・第16回全国学校飼育動物研究大会 8/30 後援
- ・日本畜犬遺伝性疾患協会セミナー2014 10/19 後援
- ・一般社団法人家庭動物愛護協会「第2回家庭犬ふれあいフェスティバル」11/2 後援
- ・日本獣医内視鏡外科研究会 11/30 後援
- ・狂犬病臨床研究会「世界狂犬病デー2014」9/28 後援
- ・一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム 第16回日本臨床獣医学フォーラム年次大会2014 9/26-28 後援
- ・日本獣医学会公衆衛生分科会「デング熱これからどうなる？」12/1 後援
- ・Zoonosis 協会 人獣共通感染症シンポジウム「登校拒否、ずる休み、うつ病、仮病等を呈す人獣共通感染症シンポジウム」02/14 後援
- ・獣医麻酔外科学会「小型犬の軟部外科に対する最新情報」H27/03/01 後援
- ・ペットとの共生推進協議会「第3回シンポジウム「ペットとの“真”の共生を目指して」13/13、12/14 後援
- ・「災害動物医療体制の確立による人と動物が共存できる地域の創造」プロジェクト H26.10月-H29.10月 日本獣医生命科学大学（災害動物医療研究会）協力

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

- (1) 東獣ホームページの充実：関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして開示に努めた。
- (2) 機関紙（東獣ジャーナル）発行：公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの定期刊行と掲載情報の充実に努めた。東京都補助の獣医公衆衛生学術振興事業による公衆衛生関係、学術情報を掲載して、知識の啓発に努めた。
- (3) 調査研究・学術情報収集：獣医関係機関、獣医大学、獣医学術団体及び関連業界等と積極的な連携を図り、獣医学術に関する調査研究の実施並びに学術情報等を収集し、その成果を社会に還元するよう公益性を担保した情報の提供に努めた。
- (4) 本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」（16頁）を、関係各所に配布した。

14. 家畜衛生防疫対策事業

14-ア. 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（農水省補助）：

農水省の補助を受けて、家畜保健衛生所など関係機関と連携を密にし、牛が死亡した際、畜産農家から相談を受けた獣医師は、畜産農家に対して牛海綿状脳症（BSE）の検査のための指導を行い、死亡牛発生場所から化製場までの適切な管理、輸送及び適切な処理に係る費用の助成等を行うことで、良好な家畜衛生及び安全な畜産生産の維持に努めた。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14-イ. 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農水省補助）：

農林水産省の補助による「家畜生産農場清浄化支援対策事業」を受けて、迅速診断法を活用し、移動予定牛や清浄化促進農場等の重点的な検査等を推進した。牛豚ワクチン接種については、牛アカバネ病、牛イバラキ病、牛6種混合等を計画的、組織的に実施した。牛ヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病の疾病の清浄化と家畜防疫対策実施基盤を強化し、畜産の安定的発展向上に努めた。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14-ウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）：

東京都の補助により、牛アカバネ病、牛イバラキ病、牛6種混合ワクチン接種料一部助成し、また、牛ウイルス性下痢・粘膜病の疾病の清浄化と家畜防疫対策の強化に貢献した。

14-エ. 家畜防疫互助基金造成等支援事業（独立行政法人農畜産振興機構補助）：

独立行政法人農畜産振興機構の補助「家畜防疫互助基金造成等支援事業」を受けて、海外悪性伝染病（牛疫、口蹄疫、牛肺疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ等）が発生した場合、これらの伝染病がまん延することを防止するため、淘汰による畜産農家の経済的損失を互助補償する互助基金を支援した。具体的には、畜産農家に対し本基金の趣旨や事業内容等の周知徹底に努め、本基金へ

の加入促進に努めた。

14-オ. 馬飼養衛生管理特別対策事業：

(公社)中央畜産会の委託を受けて、人と動物の共通感染症であるウエストナイル感染症等の侵入の危険性が懸念される中、馬の飼養衛生管理体制の総合的整備を図り、公衆衛生の向上に資するため、競走馬以外の馬(乗馬クラブ等)の飼養衛生管理体制の総合的な整備を図るとともに地域馬獣医療の実態調査を行った。その調査結果を活用して講習会を企画するなどして、獣医師向けにウエストナイル感染症、馬インフルエンザ等の情報提供と普及啓発に努めた。

H26 馬飼養管理技術地方講習会

期日：平成26年10月7日(火)

場所：大井競馬場会議室

演題：「馬のデンタルケア」

講師：伊藤桃子(愛知県)

14-カ. 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業：

都内に対象となる馬がいなかったため実施せず。

他に、地域自衛防疫強化特別対策事業として、平成26年11月16日(日)東獣'14 イヤーズカンファレンス(新青山ビル西館15階)にて、地域自衛防疫強化特別対策事業講習会を開催した。

講演一1：学校動物の飼育支援を行う獣医師に知ってほしい鳥インフルエンザ対策と発生時の対応

講師：鈴木 博(東京都家畜保健衛生所病性鑑定係主任)

講演一2：防疫要員の保護具着脱訓練(体験学習)

講師：芳野正徳(東京都家畜保健衛生所課務担当係長)

15. 医療事故防止セミナー開催事業

平成26年度は、東京都委託の獣医師育成対策事業により、獣医療広告、倫理と獣医療トラブルの未然防止を図るための動物診療施設の雇用管理に関する課題をもって以下の講習会を実施した。

都委託：「獣医師育成対策事業」小動物獣医療向上対策講習会

期 日：平成26年11月16日(日)

場 所：アクセス青山フォーラム

演 題：「一動物病院の適切な運営を考えるー・知っておきたい動物病院の労務管理知識」

講 師：小浜ますみ氏(社会保険労務士 横山社会保険労務士事務所副所長)

また、獣医療トラブルを未然に防止し、適切なる獣医療の提供に資するため、東京都担当部局から提供された獣医師法、獣医療法等獣医事に関する情報資料を基に広報チラシを作成し、都内開設の飼育動物診療施設（診療獣医師 1,615 件）、勤務獣医師（診療以外 470 件）、及び獣医関係会社・団体・大学等（62 件）の合計 2147 件に、配布した。

配布物：①獣医師法第 22 条の届出について/届出様式
②動物病院に関連する広告規制について
③咬傷事故が発生した時の狂犬病の検診について
＜広報 3 件、A4 版・カラー・8 ページ＞

II. 収益事業及びその他の事業

（1）不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

（2）福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 ②傷病見舞金 ③災害見舞金 ④特別見舞金
- 2) 旅行保険の加入
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈

（3）加入促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努め、新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を配布して、法の遵守と適切な広告のあり方、獣医療倫理、適切な獣医療の提供とカルテの記述、獣医療過誤とインフォームドコンセントの徹底等を周知し、社会に対して公益性を担保した獣医業の恒久的な提供に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。

本会から所属会員に対し有益な情報をタイムリーに発信するツールとして、東獣会員専用ポータルサイトの運営を開始し、基本サービスは無料で提供した。

（4）その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンプログラムを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

また、会員病院の名入れカレンダーを受注、販売した。

(5) 事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入の斡旋業務等を行った。

(6) 会員名簿の発行

会員名簿を発行し、会員に配布した。また、名簿に掲載する広告による収入を得た。